

「30年度アンケート分析」と「31年度に向けて」

※ 「達成されている」、「ほぼ達成されている」を肯定的評価として、「あまり達成されていない」「達成されていない」を否定的評価と捉えての分析

I 確かな学力を育む教育・・・設問1～3

設問1～3のすべてに対して教員の評価は高く、確かな学力をつけるために、授業を工夫し、意欲的に授業作りを行ってきたことがわかる。それに比べて、保護者の評価は60%程度に留まり、わからないと回答した保護者も20%近くあった。年2回の学校公開日や授業参観を有効に活用し、生徒の姿とともに授業の工夫についても見ていただけるようにしていく。そのため、授業の見所を示すなど工夫をしていきたい。

課題に対しては、しっかり取り組めなかった生徒が約30%いることを受け止め、内容や量の見直し、取り組ませ方等を検討したい。具体的には、一律な課題だけでなく、個に応じた課題（生徒自らが自分の課題に取り組む）により、個々のできないことをできるようにしていく課題について検討する。

考えを伝え合う授業では、約30%の生徒が達成できていないと感じている。新学習指導要領においても、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。安心して意見が言える学級作りとともに、問題解決的な学習や体験学習を積極的に行っていく。

- * 授業参観では、生徒の様子とともに授業作りについて、積極的に伝えられるように工夫する。
- * 課題の内容や量、取り組ませ方について検討する。
- * 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業改善を行う。

II 豊かな人間性を育む教育・・・設問4～7

特に「いじめへの対応」において、いじめ防止基本方針に則った取り組みが高く評価され、保護者、生徒、教員ともに、いじめはいけないことだという共通認識が得られている。しかし、「いじめがなくなる」と「小さいいじめは日常的にある」といった意見があることを真摯に受け止め、いじめにつながる小さなトラブルを見逃さず、確実に対応していきたい。特に、報・連・相を徹底し、情報の共有を図る。生徒間の交友関係にも注意を払い、日ごろから生徒一人ひとりに声かけられる関係を築いていく。いじめなどの問題行動が発覚した場合は、学年内の役割を明確にし、チームで対応していく。

おもいやり・優しい心について、わからないを含め30%の生徒が否定的な評価である。道徳教育に力を入れたり、活躍する場を積極的に作り出したりすることで、生徒の自己肯定感を高めていきたい。また、生徒のよい行いを、学級、学年、全校の場で積極的に認め、広見賞などで表彰していく。

あいさつについては、80%の生徒ができていますと評価している。生徒の良い部分を積極的にほめ、認めていきたい。

- * いじめ防止基本方針に従い、小さなトラブルを見逃さず、適切な指導を行っていく。
- * 生徒の活躍する場を大切にし、取り組みを積極的に認め、自己肯定感を高められるようにする。
- * あいさつを始めとする、社会におけるルールやマナーを大切にしていく。

Ⅲ 健康と体力を育む教育・・・設問 8, 9

今年度から朝の部活動が中止になったため、日課変更をすることで帰り部活の時間を設けたり、体育の授業や行事を見直すことで体力づくりの機会を積極的に作り出したりしてきた。生徒の「ほぼ達成できた」までを含めた評価が80%を超えたことから、生徒は運動の機会を有効に活用し、意欲的な取り組みから達成感を得られたと評価できる。

規則正しい生活では、保護者、生徒の評価に比べ、教師の評価が低くなっている。夜更かしで遅刻する生徒や朝食を食べないなどで体調を崩す生徒は依然多い。その背景には、SNSをやめられない生徒の増加も一因となっている。保健だよりやスマホ教室等を活用し、規則正しい生活の大切さを伝えていきたい。

- * 体育の授業や体育的行事、部活動の内容や取り組ませ方を工夫することで、体力づくりの機会を確保する。
- * 保健だよりやスマホ教室、保護者会などを利用し、基本的な生活習慣の大切さを伝えていく。

Ⅳ きめ細やかな指導の充実・・・設問 10, 11

チームとしての有効的な指導や個に応じた細やかな指導では、特に生徒の高い評価を得ることができた。しかし、約20%の保護者や生徒が「達成できていない」と答えている。教員同士の連携の強化やきめ細やかな指導を更に心がけ、積極的に発信していきたい。特に、学年外の通級指導担当教員、スクールカウンセラー、心の相談員、あいフレンド、発達障害児支援補助員などの取り組みや活動の様子を、ホームページやたより等で積極的に紹介していきたい。

- * 教員同士の連携を強化し、チームとしてのよさを生かし指導にあたる。
- * 生徒の学習状況や達成度、心の状態を敏感につかみ、個に応じた適切な指導を心がける。

Ⅴ 学校、家庭、地域との連携の推進・・・設問 12, 13

いずれも約80%の評価を得ることができた。学校公開週間は「教室に入りにくい」という声も寄せられているが、日を限定することで参加できなくなる保護者がいることを考えると、今後も公開週間を設けることで授業公開をしていきたい。ホームページについては、「もっと多くの写真や情報をのせてほしい」という意見がある一方で「個人情報に細心の注意を払ってほしい」という意見もある。不特定多数が見られるホームページでは、個人情報の保護を考え、発信を行っていききたい。

- * 開かれた学校を目指し、保護者が学校に来る機会をできるだけ確保していく。
- * 学校・学年だより、ホームページなどを利用し、学校の様子を適切に伝えていく。